

ジンバブエ経済（経済情報の週間とりまとめ：10月第3週目）

- 1 新たな観光地への投資促進
- 2 カレドニア・マイニング社による金採掘量、55,244オンスに到達
- 3 38件の鉱山事業独占探査命令（EPO）が承認される
- 4 外貨預金が433%増加し16億米ドルに到達
- 5 2023年のタバコ輸出総額が7億5,800万米ドルに到達

1 新たな観光地への投資促進

ロジ観光・ホスピタリティ産業大臣は、経済成長の為に新たな観光地は重要であるとし、ヴィクトリアの滝、カリバ湖、イースト・ハイランド、ハラレ、ブラワヨといった伝統的な観光地に加えて、新都市（マウント・ハンブデン）、ビンガ、ツグイームコシ、カニエンバ、マゾウェ等も新たな観光地として投資を呼び込んでいくと述べた。ロジ観光大臣は、「国内外からの投資を呼び込み、国家開発戦略（NDS）1のもと、観光分野が経済成長に大きく貢献できるよう優先経済分野として宣伝していく。2025年までには、国内への投資規模において少なくとも6億米ドルを観光分野が占めると予測する。」と述べた。（14日付、デイリーニューズ紙）

報道リンク：<https://dailynews.co.zw/zimbabwe-develops-new-tourism-investment-hotspots/>

2 カレドニア・マイニング社による金採掘量、55,244オンスに到達

カレドニア・マイニング社によるブランケット鉱山への投資が実を結んでおり、2023年1～9月間の金採掘量が55,244オンスに到達した。カレドニア社代表は、2023年は75,000～80,000オンスの金採掘量を目指す述べた。（17日付、ニュースデイ紙）

報道リンク：<https://www.newsday.co.zw/business/article/200018151/caledonia-gold-output-hits-55-000oz>

3 38件の鉱山事業独占探査命令（EPO）が承認される

国内鉱山事業拡大等を目指して新たな鉱床模索を促進させるための、特定の地理的位置で新鉱床を模索する権利を投資家らに与える EPO が、政府により38件付与されたことから、鉱業分野のさらなる発展が期待される。ジンバブエ国内には、60以上もの鉱床があるものの、うち10以下のみが商業的目的のために使用されている。（19日付、ヘラルド紙）

報道リンク：<https://www.herald.co.zw/38-epos-issued-as-mining-sector-booms/>

4 外貨預金が433%増加し16億米ドルに到達

マングジカ中央銀行（RBZ）総裁は、国内外貨預金が、2018年の3億米ドルから433%増加し、2023年9月末時点では16億米ドルとなったと述べた。国内関係当局は、米ドル廃止に努めているものの、国内経済活動における主要通貨は米ドルであり、市場での米ドル利用は80%を占める、と述べている。（20日付、インディペンデント紙）

報道リンク：<https://www.newspday.co.zw/theindependent/local-news/article/200018314/foreign-currency-deposits-rise-433-to-us16-billion>

5 2023年のタバコ輸出総額が7億5,800万米ドルに到達

2023年のタバコ輸出規模が、現時点で7億5,800万米ドル相当以上の1億5,300kgに到達し、昨年同期比で28%上昇した。ジンバブエは、タバコ生産においてアフリカ大陸で最大の生産規模であり、世界では、中国、インド、ブラジル、米国、インドネシアに次いで6番目のタバコ輸出国である。（23日付、ヘラルド紙）

報道リンク：<https://www.herald.co.zw/tobacco-exports-hit-us758m/>